

皆さん、おはようございます。令和3年度、2021年度の始業の日を迎えました。

例年にも増して教職員の異動がありましたが、このメンバーで創立101年目のスタートを切ります。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、いわゆる「コロナ禍」での制限ある教育活動が実質2年目となります。先の1年で学んだこと、実践したことをもとに、未知から既知に移行しつつあるコロナに対して知を駆使してその対策に取り組み、決して学びを止めない、様々な工夫によってむしろ学びの一層の充実を図っていきたくと考えます。

今年度、特に大切にしたい姿勢についての考えを伝えます。それは「意義・意味の検証と重視」です。たとえば、式典開催について。集合型か、オンライン活用の分散型か。昨年度も常に検討され、様々な工夫が施されました。今年度の始業式を、どう考えるか、教職員で協議した結果、集合形式であっても、従来のような習慣的な集合ではなく、時間差を設けるなどの工夫の中での対面開催としました。紐づく着任式との関係も含め、一堂に会することの意味を重視したからです。令和3年度の出雲高校は、この2・3年生、教職員とで構成され、明日の新入生、補習科生を迎える準備に当たることになります。そうした意味で、この場は一種の決起集会の意味を持つ。覚悟を決めて決起するのに、オンラインでは限界があると判断しました。各自が五感で感じる息遣いや規模感、「これが山高だ、令和3年度の山高メンバーだ」との実感を大切にしたいのです。どうですか、この雰囲気。島根県で最も生徒数の多い高校の迫力。新3年生にとっても、少し忘れかけた感覚ではないでしょうか。この集団だからできることが必ずあります。そう感じたら動いてみてほしい。「感じたら動け!」、理性による理解を待たないで、心の動きに従って動かなければ間に合わないこともあります。特に、非常時。感じたら動こう!

学校行事や式典など、Withコロナの観点で常に検証が必要です。その行事等の意義や意味が開催に足るものか、安全保障とのバランスを考えていきましょう。もちろん、生徒の皆さんの探究的で建設的な意見にも耳を傾けながら、共に創り上げる、そんな共学共創の学び舎でありたいと願います。

Withコロナ、afterコロナに向け、意義や意味をしっかりと検証していくことが極めて重要だと思います。令和3年度は、ここに集ったメンバーに、明日の新メンバーを加えて、101年目の足跡を刻んでいく覚悟を固めたいと考えます。理性もさることながら、感性・心を大切に、危機管理の意味でも、いつも「感・動」、「感じたら動け!」です。

今後折につけ、皆さんとともに、校歌にもある「我等の出雲」の伝統継承とイノベーションのあり方について探究していきたいと考えています。習得・活用の先にある探究、共に取り組みましょう。ここに集う我等は、この鷹の沢にあって、久徴園の豊かな自然の中で、正義と真実のあまねき光を仰ぎつつ、平和と友愛のみなぎる命を高らかに歌い上げながら、確かな学びを得ていきましょう。

以上、このチームで創立101年目のスタートを切る決意を共有し、始業の言葉とします。

令和3年4月8日

島根県立出雲高等学校 校長 多々納雄二